

埼玉自動車大学校版

〒362-0806
北足立郡伊奈町
小室1123番地
048(723)5522

東京オートサロン 出展車両2台が完成

カスタムボディ科の学生33名が、1月13日から15日に幕張メッセで開催される「東京オートサロン」に出展するカスタムカーを完成させた。

今年は2台を出展し、1台は「ホンダ S660」をベースにオリジナルのエアロパーツを製作し、学生の創造性を表現した。もう1台は、日産サニートラックをベースに、ナショナルサービスクーペを再現した。



昨年9月の中旬から車両製作を開始し、各部位ごとに学生が担当し、責任を持ち作業を行った。完成の期日が近づくにつれて放課後の作業も遅くなりはしたが、完成した車両は学生達も満足いく仕上がりととなった。



二輪安全運転指導 埼玉県警を招き実施



まず、白バイ隊員の模範走行を見学しながら走行ポイントの説明を受け、その後各自が走行した。セクション毎に一人ひとりがアドバイスを受け、繰り返す度に技術の向上が見られた。

二輪車通学生対象の安全運転指導が12月9日、8名の埼玉県警察本部交通機動隊員を講師に招き、実施した。

指導は低速バランス二本橋、スネーク、バランス(スラローム、オフセットスラローム)、ブレーキ

最後に、隊員のデモンストラクション走行を見学。隊員から「路上では自分の限界を試すようなことはせず、周りをよく見て危険を予測し、自分が正しくても一步譲るゆとりが安全運転につながる」との訓示があった。

第2回 校外学習

一級・二級自動車整備科1年280名が12月2日、東京お台場での自主研修を主体とし、「トヨタシティシヨウケース」と「東京スカイツリー」での校外学習を実施した。



トヨタシティシヨウケースは、自動車メーカー最大手のトヨタが運営し、「見て、乗って、感じる」をテーマに新型車両の展示や試乗など、車に触れ合う場として人気を博している。学生たちは、最先端の技術を集結した車を前に目を輝かせ見学をしていた。

観光スポットとなっている東京スカイツリーでは、天候にも恵まれ展望台から大都市の絶景に歓喜しながら学生間の親睦も深まり、改めて集団行動の意義を感じ研修を終えることができた。

チャレンジする学校

親交会会長 永田 早苗

新年ごあいさつ



明けましておめでとうございます。

旧年中は、親交会活動にご理解、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

昨年はオリンピックキヤーでした。メダルの数は史上最多の41個獲得(金12銀8銅21)でした。

パラリンピックは24個獲得(銀10銅14)でした。佐藤栄学園の出身者も大勢オリンピックに出場しましたので、応援にも熱が入りました。

インタビュールされたメダリスト達が、「このために4年間頑張ってきた」

「金メダルを目標にした」と口々に話していました。4年間金メダルという高みを目指して、継続的に努力し結果を出したのです。

この事ほどの世界にも通ずることで、埼玉自動車大学の学生も国家資格を取得する為に、日々努力し、結果を出そうとしています。

学生だけが努力しても結果は出せません。学校側が学生の目標達成のために多大なチャレンジをしてくださっています。

学校生活がマンネリしないように、夏のイベントではイタ車、ヒストリックカー、新たにスーパーカーの展示や、公開授業、授業参観にレーシングドライバーの谷口信輝選手を招いたり、埼玉大祭には、新しくドライビングゲームを取り入れ、

クラス対抗を楽しむなど、学生が日々、新鮮に勉学に励めるよう、学校も色々な企画を考え取り入れてくれます。

本年度も整備士試験が近づいてきました。受験生は設備の整った素晴らしい環境を利用し、高い目標にチャレンジしてください。

私達親交会も挑戦する学生・先生方を、陰ながらサポートし、コミュニケーションを取りながらフォローしていきます。受験生が自分自身の最高の結果を出せるよう、全員の合格を祈って、温かく見守っていきます。

最後になりますが、皆様方の今年一年のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



バドミントン部 全国大会に出場



第4回全国専門学校バドミントン選手権大会が平成28年12月12日、文部科学省後援のもと実施され、本校から団体戦初出場となった。参加出場権を得るに至った経緯は東京都専門学校バドミントン大会での過去の成績が参加しうる資格を有している」と評価されての出場権であった。

創部1年目での快挙であり、全国を相手に上位入賞を目指し戦ったものの、準々決勝で惜敗、ベスト8という結果になった。

次年度は今回の戦績を踏まえ更なる高みを目指し頑張っていきたい。